

教育方法シラバス

職業教育研究開発センター・第26期介護教員講習会

「教育方法」・学習へのご案内

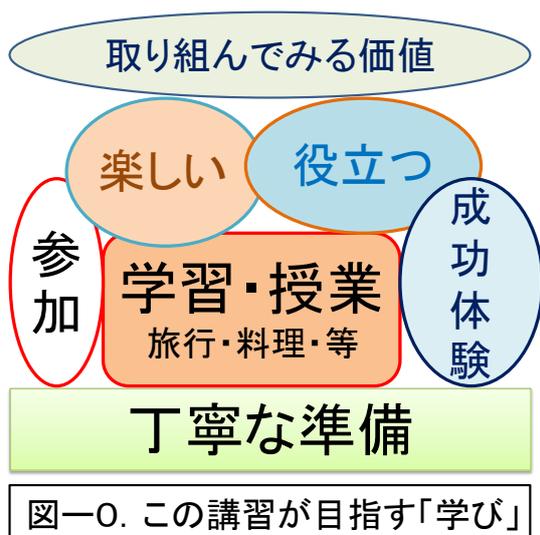
・・・介護教員講習会「教育方法」履修予定の皆さまへ・・・

「介護」を教えるのは、職場でも後輩にやってきたし、別に仰々しく「教育方法」など学ばなくてもできる、と思うかもしれません。また、そんなの大学で履修したし、と思うかもしれません。確かに、数人の人にもものを教えることは、特に学ばなくても上手にできる方もいます。また、大学などでしっかり学んだ方もいるでしょう。

しかし、教えられた人は、それで上手に仕事を楽しむことができるようになったでしょうか。大学などで「教育〇〇」を学んではいても、**学生と共に学び合う楽しさ**を見つけることができたでしょうか。私（担当教員）は、仕事も学びも、**それを行う価値（意義）**が確認できて、**楽しくなければならぬ**と思っています。

勿論、目標は達成しなければなりません、それを活動する仲間と仲良く楽しくともに進めたいと思っています。

そんな意味で、この「教育方法」の学習も皆さんも私（担当教員）も楽しみながら、「学習支援」「授業」「教育」「教育方法」の原理を学んでいきたいと考えています。というわけで、この講習は皆さんも**楽しむつもりで参加**してください。黙ってじっと聞いている位、楽しくないことはないでしょう。講習時間中は、是非、リラックスして「あれっ!」「えっ!」「うわっ!」「ん!」とか**思ったら、気が付いたことがあったら、疑問が湧**



いたら、どんどん気楽に発言してください。学ぶのは皆さんと講習生仲間（と私）です。難しく言うと「学習主体」は皆さんです。皆さんがこれから、学生たちの前に立つたらどうすれば学生が学べるのか、それを体験的に理論的に学ぶのが、この科目の目標です。

但し、**楽しむためには楽しむ準備が必要**です。旅行に行くにしても、映画を見るにしても、楽しむには準備をしなければなりません。この準備は、多くの場合、準備すればするほどより多く楽しめます。（お料理にしても、いい加減な準備では「病気」になったり「けが」をしたりしてしまいます。）この講習での「学習」も同じことです。ではどんな準備をすればよいのでしょうか。（それが分かっているなら、この講習を受講する必要はないのだと思いますが。）学習目標をどうするかで異なりますが、色々な準備の仕方があります。

この講習では、楽しく充実した学習ができるように、「教育」「教育方法」「学習支援」「授業」の原理が、しっかり身に着けられるというレベル（基礎・基本的・理解と能力の修得）を目指して、**受講生の皆さま**

ん個々の違いを生かして学べるような、準備課題（アサインメント）を用意しておきました。毎回の課題は少し大変かもしれませんが、準備すればするほど、あなたも仲間も講習生も私も楽しめる時間になるでしょう。

以下、この「教育方法」での学習の内容や方法などについて紹介しておきます。楽しみながら学び、内容を身に付けていくためには、準備の第一歩は、以下をお読みいただき、それとなく頭に入れておくことです。では、始めましょう。

（担当教員・川廷宗之・通称「泣かない赤鬼」）



1. メイン・テーマ 介護福祉士養成のための「学習」支援方法

2. 学習の目的

この介護教員講習会での科目「教育方法」での学習目的は、（介護福祉士養成系の）「実務家教員」として職業教育機関の教員になるために修得しているべき、**学生への「学習支援方法（教育方法）」を修得すること**です。

言い換えると、どうすれば学生に、楽しく効率的に充実した学習の場を提供できるか、実際に具体的に体験を含めて身に着けることです。

3. 参加者の皆さんができるようになる事（達成課題）

この講習の終了時点で、参加する皆さんができる様になっている（はずの）事は以下の通りです。

- ①「学生」とともに、自分自身も学べるようになること。
- ②「学生」同士の学びを支援（誘導・環境設定）できるようになること。
- ③ 楽しく効率的な学びの仕掛けが有効性を持つことを確認していること。

4. 上記3. の「達成課題」ができるようになったかどうか、確認します。

上記の課題が課題を達成できるようになったかどうかは、最終日以後2週間以内に作成していただく、下記のレポートで判定します。

レポートテーマ 「あなたが将来なりたいと思う（今はできなくても）学習支援者像、およびあなたが（将来）行いたい（今はできなくても）学習支援方法について、説明してください。」

（2000字以上（4000字以内）の文章と図解（二葉以上必須）を使って）

（直ぐに、そう成れなくても、そういう支援方法を実践できなくてもかまわない。両方とも自分が将来できるようになりたい具体的イメージとしてまとめてください。解りやすく。）

（合否・判定基準は、講習中にお伝えします。）

5. 主な学習内容（毎回の学習予定と主題） 全30時間・課程

皆さんが、上記3ができるようになるために、上記4の課題を（軽々と）こなせるようになるために、以下のような内容を学びます。

- 第1回（第1日目） ①この科目での「学び」
- 特別回（第1日目） ①-2「職業教育」が抱える今後への課題
- 第2回（第2日目） ②「学ぶ」とは ①何をどう学んできたか
- 第3回（第2日目） ②「学ぶ」とは ②何をどう学びたかったか
- 第4回（第3日目） ③他者の「学び」への支援 ①出会った人（人生での師と思う人）
- 第5回（第3日目） ③他者の「学び」への支援 ②「共育（ともい）」の関係（学生と教員）
- 第6回（第4日目） ④「生きる」喜び ①人生を裕（ゆたか）に楽しむ
- 第7回（第4日目） ④「生きる」喜び ②目標をどう実現していくか、その方法
- 第8回（第5日目） ⑤人生をどう創って行くかを「学ぶ」 ①生きるための「学び」
- 第9回（第5日目） ⑤人生をどう創って行くかを「学ぶ」 ②教員としてミッション（使命）
- 第10回（第6日目） ⑥「学習支援者」としての旅立ち

「関連して学習日程と時間」以下の通りです。

第1日目・7月9日（土）午前・第1回 午後・特別回

（この回のみ13時から16時まで）

第2日目・7月23日（土）午前・第2回 午後第3回

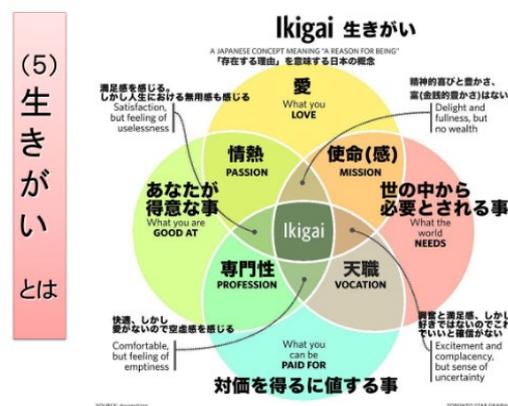
第3日目・8月6日（土）午前・第4回 午後第5回

第4日目・8月20日（土）午前・第6回 午後第7回

第5日目・8月27日（土）午前・第8回 午後第9回

第6日目・9月3日（土）午前・第10回

講習時間は、午前は、午前9時20分から12時30分まで、午後1時30分から午後4時40分までです。なお、授業時間以外のアサインメント作成などの時間として、毎回につき1～2時間を必要とします。



6. 学習を身に着いたものにするための、アサインメント

上記5の学習を行っていくために、また、充実した（完成の喜びを味わえる、「わかった」と実感できる）楽しい講習を展開していくために、この講習に参加する方々には、以下のアサインメント（課題・宿題）に取り組んでいただきます。（進行状況によっては、途中で若干の変更可能性があります。）

①「アサインメント1」・・・第1回に出題

あなたが、今までの生涯の中で、最も学んだと思うことは何（内容）ですか。それを何処で、誰から、どういう風に学びましたか。（800～1200字程度・小見出し・複数案件・）

②「アサインメント2」・・・第3回に出題

あなたの生涯の中で、「この人からもっと学びたい」と思った方はどなたですか。（お名前は伏せておいてよい。どこのどういう人か、何歳くらいの人かは紹介してください。）

あなたは、何故、その方から学んだと考えるのですか。（1200字以上・小見出し・複数案件）

③「アサインメント3」・・・第5回に出題

あなたは、自分のこれからの人生をどう創って行きたいと思いますか。（様式指定）

④「アサインメント4」・・第7回に出題

あなたは、今後、何を（どうやって、どこで）仕事上の後輩たちに教えていきたいですか。その内容を後輩に教えて、彼らが教えてもらってよかったと思うであろう理由は何ですか。

（1200字以上・小見出し・複数案件）

⑤「アサインメント5」・・第9回に出題

教えていきたい内容を効果的効率的に解ってもらうには、どこでどういう方法で教えればよいと考えますか。

（800～1200字程度・小見出し・複数案件・）

⑥「受講生コメントカード」・・毎日修了時

指定された項目（6項目＝要約（必須）＋質問＋感想＋メッセージ＋指定質問＋俳句と短歌）にご回答いただく形で、毎回、提出してください。このカードの「今回の授業の『要約』」等の内容を見て、実質的な出席確認とします。

7. 学習への取り組みのための教材

この様な学習を展開するために、以下の教材を使います。テキストは、受講時にすぐ見られるように、手に取れる所に置いておいてください。また、毎回、こちらからお送りする教材、受講生同志で交換する教材等を使います。この教材に関しては、プリントしておいた方が学びやすいでしょう。しかし、かなりの分量になる場合もありますので、PC操作に慣れている方はデータで保管しておいて、その都度、画面で見てもかまいません。適宜、自分に合わせたやり方で活用してください。

テキスト

①川廷宗之著「学生も教員もともに楽しめる教育方法入門」上・下

（下巻は第7回目以降使用） 職業教育研究開発推進機構・2022年・刊

②川廷宗之編著「専門職大学の課題と展望」ヘルスシステム研究所2018年刊行

（販売取扱・職業教育研究開発推進機構）

送信教材（予定）

①前回の振りかえり（質問回答など）

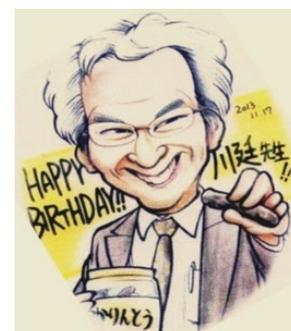
②その回の学習補足資料 ほか

8. 充実した学習を展開するために・・

- (1). **共に学ぶ皆さん**・・ 17人の熱心かつ優秀な、実務家教員として介護教員となることを目指す、平日は働いて貴重な土日も学ぼうという目的意識のはっきりした（超多忙な？）30代から60代の受講生の皆さんと、担当教員として川廷宗之（かわていもとゆき）〔大妻女子大学名誉教授〕です。

第1回目の講習で、皆さんに自己紹介をお願いします。

- (2). **Zoomを使用したオンライン授業**・・ 基本はスマホではなくP Cを使うことを想定して進めます。教材等は、全部P C想定で準備されています。従って、PC操作に習熟してください。



(Word、Excel、PPT や Zoom、Mail などの操作ができることは、教員の必須要件です。) また、通信環境の確保も (できるだけ有線で) お願いします。

(3). **皆さんと担当講師のコミュニケーション** – 問い合わせ・連絡先 –

授業で使用するレジュメ (発表したりする時の概要をまとめたもの) の提出先などで使う、連絡先 (事務局) のアドレスは、supportkaikyoin@keishin-group.jp を使っていますので、何かと必要になりますので登録しておいてください。

課題の提出先は、担当教員への連絡アドレスの [] と事務局アドレスの**両方に送信**してください。(メールは確実に着くとは限りませんので。。)

ご質問や問い合わせなどのご連絡は歓迎します。出来るだけ、授業時の休み時間などに質問していただくと良い (チャットでの質問も可) のですが、うまくいかない場合は、Eメールでお願いします。(質問等送信先アドレスは、担当教員への連絡アドレス使用)、なお、個別での回答には2～3日、内容によっては1週間前後の時間を要する場合がありますのでお含みください。

(4). **「介護教育方法」との関連**・「介護教育方法」の講習内容は、この科目内容及び「教育学」「教育評価」の両科目を踏まえて展開されます。(介護関連科目は勿論、基礎科目となります。) 「教育方法」での使用した教材は、「介護教育方法」でも使用する可能性がありますので、使える状態で保管して置いてください。

9. 参考資料など

一層学習を深めたい人のために、参考資料等をご紹介します。中には、アマゾン (中古品等) でしか、入手困難なものもあります。かなり人気本も多く、価格がどんどん上がる傾向がありますので、入手する方は早め入手されることをお勧めします。

(1). 重要参考文献

川廷宗之編著『介護教育方法の理論と実践』弘文堂 (介護教育方法テキスト)

(上記は、授業中使う可能性がありますので、持っていることが望ましい。)

川廷宗之編著『介護教育方法論』弘文堂 (まだ入手可能・アマゾンへ)

D.W.ジョンソン他著 (関田一彦他訳)『学生参加型の大学授業』玉川大学出版部

早川操・伊藤彰浩編著「教育と学びの原理」名古屋大学出版会・2015年刊・

本田由紀著「教育の職業的意義」ちくま書房

(2). 関連主要参考文献

- ①川廷宗之著『社会福祉教授法』川島書店 (アマゾン)
- ② 川廷宗之編著「社会福祉士養成教育方法論」弘文堂
- ③ 瀧本哲史著『ミライの授業』講談社
- ④ 内田樹著『下流志向』講談社 (文庫)
- ⑤ 森口朗著『授業の復権』新潮社 (新書)
- ⑥ ジョージ・ジェイコブズ他著『先生のためのアイデアブック』

ナカニシヤ出版

編著書 (代表的なもの)



- ⑦ 梶田叡一著『教育評価』有斐閣（「教育評価」テキスト）
- ⑧ 出口治明著『ここにしかない大学』日経 B P 社
- ⑨ 林純次著『残念な教員・・・学校教育の失敗学』光文社新書
- ⑩ 山本崇雄著『なぜ『教えない授業』が学力を伸ばすのか』日経 B P 社
- ⑪ リンダ・グラットン他『ライフシフト・・・100年時代の人生戦略』東洋経済新報社
- ⑫ 絹川正吉著『大学教育の思想』東信堂
- ⑬ 尾木直樹著『子どもの危機をどう見るか』岩波新書
- ⑭ ダニエル・スティーブンス他著『大学教員のためのルーブリック評価入門』玉川大学出版部
- ⑮ 稲垣忠他著『教師ためのインストラクションデザイン・授業設計マニュアル』北大路書房
- ⑯ 溝上慎一著『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂

(3). キーワード・・・

- ・人生（を楽しむ） ・学習（学ぶ） ・学習支援 ・相互作用
- ・職業への確信 ・協同学習 ・生きがい ・Well Being ・学生 ・学習者
- ・教育理念 ・教育方法 ・「授業」 ・授業方法 ・アクティブ・ラーニング
- ・学習指導 ・学習支援 ・教育課程 ・P B L 学習法 ・知識観 ・学力（観）
- ・授業改善 ・教授法（学） ・授業案 ・（学習） 授業案 ・F D ・教員
- ・授業設計（計画） ・シラバス ・教科書 ・教材開発 ・問題解決学習
- ・表現活動 ・体験学習 ・発問 ・板書 ・ポートフォリオ
- ・メディア革命 ・情報教育 ・ルーブリック評価 ・キャリア・ガイダンス
- ・介護福祉（教育） ・授業評価 ・教員評価 ・授業研究 ・授業記録 ・教師教育

（主なもののみ）

※キーワード＝授業終了時に理解している（説明できる・その単語を使って物事を語れる）べき単語（学びの糸口になる・資料検索時に活用できる単語）

職業教育研究開発センター・第 26 期介護教員講習会「教育方法」シラバス・・・ここまで・・・